

社会資本整備に係る東北地方の将来の姿 (仮称)

(案)

平成16年1月

国土交通省

東北地方整備局
東北運輸局
東京航空局
第二管区海上保安本部

目 次

I. 東北ブロックの現状と課題

1. 広大な国土、脊梁山脈、豪雪等が暮らしに大きく影響…………… -1
2. グローバル化への対応の遅れ…………… -3
3. 災害に対する脆弱性…………… -5
4. 高齢化の進展…………… -7
5. 都市中心部の空洞化の進展…………… -9
6. 豊かな自然、素朴な風土、個性的な文化の形成…………… -11

II. 東北ブロックの目指すべき将来の姿

1. 東北ブロックの将来の姿…………… -1
2. 「強く美しい東北」の実現に向けた基本方針（4つの柱）…………… -2

III. 東北ブロックにおける重点事項

1. 社会資本整備における東北の重点事項と目標…………… -1
2. 重点事項の目標を達成するための具体施策…………… -2
 - (1) 『「縦」、「横」のネットワークによる広域的な交流・連携の推進』…………… -2
 - (2) 『グローバル化に対応した「自立した経済システム」を支える基盤整備』…………… -12
 - (3) 『あらゆる災害に強い安全な地域づくり』…………… -23
 - (4) 『雪に強く、安心して快適な地域づくり』…………… -40
 - (5) 『高齢化社会に対応した安心して生活出来る地域づくり』…………… -45
 - (6) 『「コンパクトシティ」の推進』…………… -53
 - (7) 『東北らしい自然環境との共生』…………… -65
 - (8) 『循環型社会の構築』…………… -77

IV. 将来の姿を達成するために必要な、総合的施策の展開

1. 地域経済活性化のための事業の重点実施…………… -1
2. 多様な政策手段による連携施策等の本格的実施…………… -5
3. 地域との対話の重視…………… -8

I.東北ブロックの現状と課題

1. 広大な国土、脊梁山脈、豪雪等が暮らしに大きく影響

東北地方は、広大な国土と豊かな自然環境や文化資源に恵まれ、大きなポテンシャル（潜在力）を有している。しかし、脊梁山脈や峠、豪雪等が地域間交流や人々の暮らしに大きな影響を与えているため、広域的な連携を強化し、個性を活かした活力ある地域づくりを推進していく必要がある。

- ・ 東北地方は、各県とも広大な面積を有しており、総面積は、約6万7000 k m²で全国の約18%を占め、これは、四国・九州・沖縄を合わせた面積（約6万3,000km²）よりも大きい(図)。
- ・ 東北地方の地形は、南北に並走する三列の急峻な山脈・山地によって地域が分断され、点在する小平野・盆地に主要な都市が存ることから、他の地域に比べ都市間距離が全国平均の1.4倍と長い。また、主要都市 間を結ぶ一般国道が不通の場合に、約3割の区間で1時間以上の迂回による損失時間が発生 する(図 、 、)。
- ・ 地域間相互の連携や交流のために必要な規格の高い道路 の整備率は低い状況となっている (図)。
- ・ 東北地方の8割は豪雪地帯に指定されており、冬は積雪等による厳しい気象の地域である。このため、峠など雪による通行止区間が他の地域に比べて多く、積雪期の地域間交流や日常生活の妨げとなっている(図 、 、 、)。
- ・ 都市間を結ぶ道路や幹線鉄道の一層の整備により東北地方の広さを克服し、地域の資源を有効に活用することで、地域間の連携の強化、地域の活性化を推進していく必要がある。

図 広大な国土

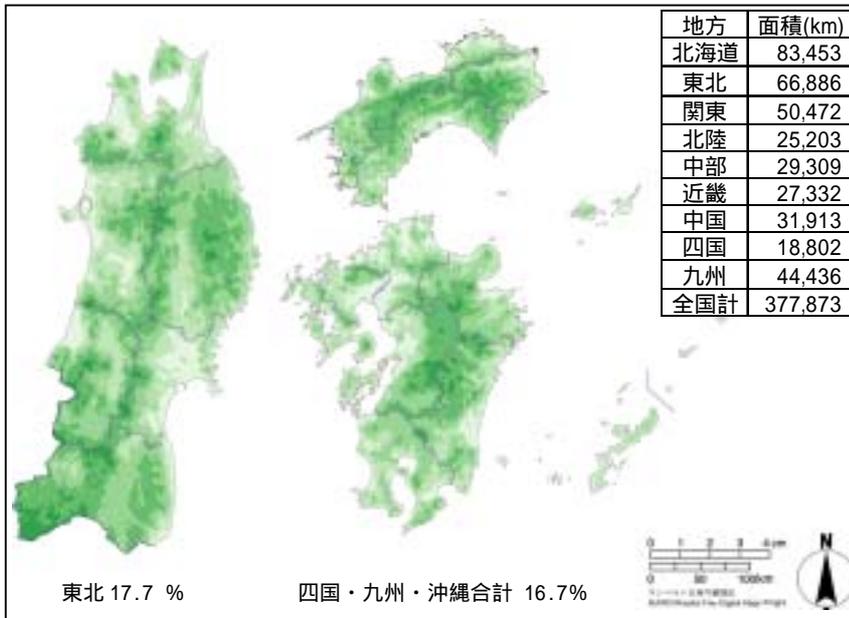


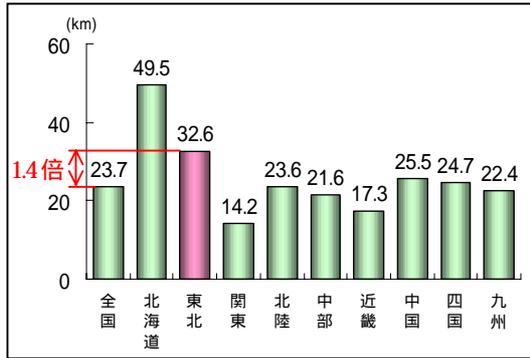
図 地域を分断する地形



用語解説

主要都市：地方生活圏中心都市
 約3割の区間で1時間以上の迂回による損失時間が発生：主要都市間を結ぶ最短（時間）ルートが高規格道路となる場合は評価対象外とし算出した迂回損失時間の延長割合
 規格の高い道路：
 ・高規格幹線道路：高規格幹線道路は自動車の高速交通の確保を図るため必要な道路であり、全国的な自動車交通網を形成する自動車専用道路
 ・地域高規格道路：全国的な高規格幹線道路網と一体となって、通勤圏の拡大や都市と農山村地域との連携の強化等による地域集積圏の拡大（連携機能）、高規格幹線道路を補完し、物資の流通、人の交流の活性化を促す地域集積圏間の交流（交流機能）を図り、港湾・空港との広域交流拠点や地域開発拠点等との連絡（連結機能）を図るための道路

図 平均都市間距離



資料: 国土交通省資料(H12 国勢調査)

図 一般国道不通時の迂回損失時間

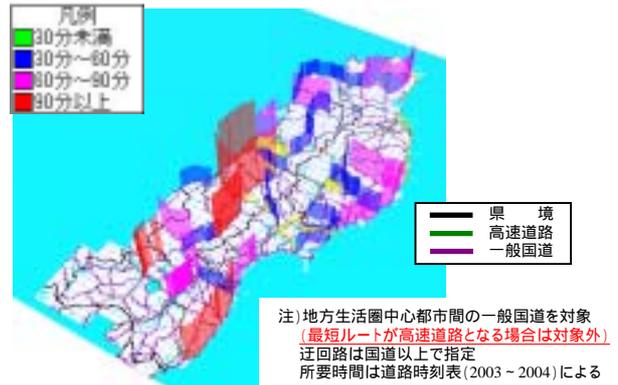
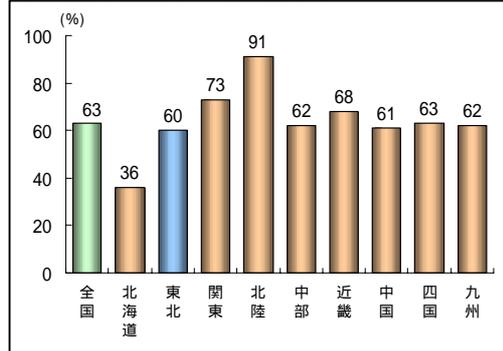
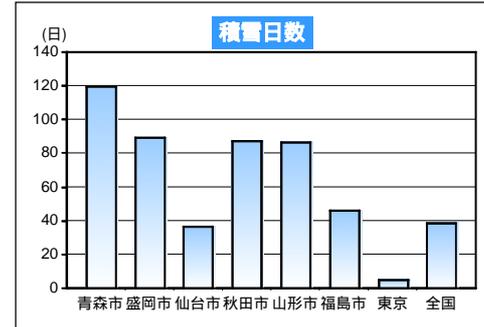


図 高規格幹線道路整備率 (国土開発幹線自動車道供用割合)



資料: 国土交通省資料(H15.3 月末現在)

図 冬の厳しい気候



資料: 理科年表 (S46 ~ H12 までの平均値)

図 東北の豪雪地帯

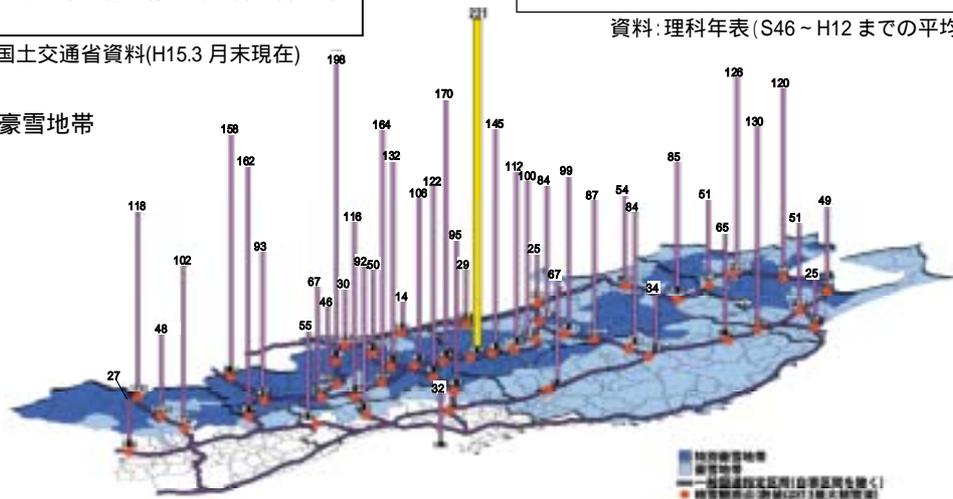


図 冬の道路状況

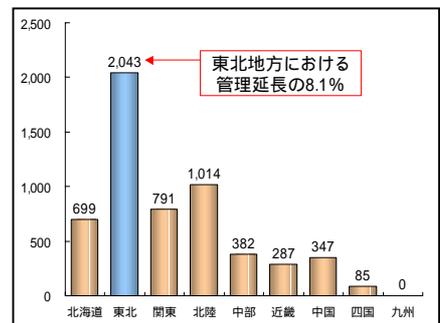


(危険な通学路の状況: 国道 13 号秋田県横手市)



(地吹雪の状況: 国道 4 号 福島県桑折 ~ 国見間)

図 冬期通行止めの状況



資料: 「冬期における一般国道等の通行不能区間」(道路交通情報センター H14.3)、道路統計年報 2002

用語解説

豪雪地帯: 積雪が特にはなはだしいため、産業の発展が停滞的で、かつ、住民の生活水準の向上が阻害され、累年平均積雪積算値が 5,000cm 以上の地域

特別豪雪地帯: 豪雪地帯のうち、積雪の度が特に高く、かつ、積雪により長期間自動車の交通が途絶する等により住民の生活に著しい支障を生ずる地域

ア 積雪の度の要件

累年平均積雪積算値 15,000 cm 以上の地域が当該市町村区域の 2 分の 1 以上ある市町村またはその地域内に市役所または町村役場が所在する市町村

累年平均積雪積算値が最高の地域にあっては、20,000 cm 日以上、最低の地域にあっては、5,000 cm 日以上で、かつ、単位面積当たりの累年平均積雪積算値が 10,000 cm 以上の市町村

イ 積雪による住民の生活の支障の要件

自動車交通の途絶の状況等を総合的にみて、住民の生活支障度が著しい市町村(特別豪雪地帯の指定基準: 昭和 54 年内閣総理大臣決定)

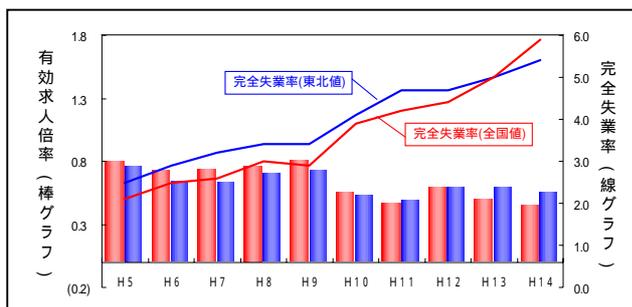
「豪雪地帯対策特別措置法」

2. グローバル化への対応の遅れ

経済活動における地域間競争の激化が進む中で、東北地方は、域外の港湾・空港の利用依存度が高い等、グローバル化への対応が遅れているため、国内外との競争力を高めていく必要がある。

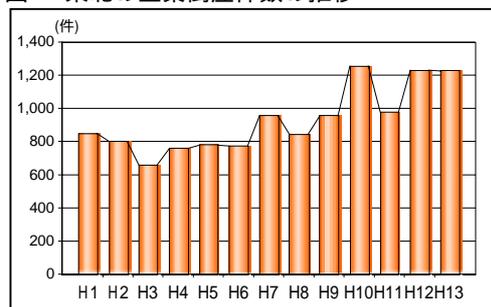
- 労働市場の国際化により製造業のアジアへの移転等の産業の空洞化に伴い、雇用環境が悪化している。また、長引く不況により、東北地方における企業倒産は増加傾向にある(図、図)。
- 東北地方は、規格の高い道路の整備率が全国と比較して低いこと、主要な港湾・空港と高規格幹線道路や鉄道とのアクセスが不十分であること等から、国内の移動輸送のコスト高、更には、製品コスト高を招いているため、経済・社会のグローバル化による国境を越えた企業活動の活発化により、世界規模での企業間、地域間競争が激化している中で、国際海上コンテナ貨物の約8割が東北以外の港湾を経由しているなど、輸出入貨物は、域外の港湾利用に依存している(図、)。)
- 東北の港湾・空港を利用した輸出入額は増加傾向にあるが、対全国シェアは低く、港湾地域の製造品出荷額シェアについては、宮城県と青森県を除いて全国平均(約15%)を下回っている。(図、)。
- 国際旅客については、日本人出国者の約6割が東北以外の空港を経由しているなど域外の空港に依存している。また、東北の空港・港湾からの入国外国人数は6万人程度と全国の1%に止まっており、極めて低水準である。そのため、今後の新たな地域経済活性化の鍵として外国人観光客の来訪促進が重要となっている(図、)。
- 国際競争時代に対応するため、時間コスト、輸送コストの削減や利用者の利便性向上に応えた物流・旅客サービスの提供が求められており、広域物流ネットワークの形成・強化や、東北に寄港する船舶の大型化に対応した港湾整備、空港との相互連携・機能向上を支える道路や鉄道整備等の社会資本整備が重要となっている。

図 厳しい経営、雇用状況



資料：職業紹介状況調査、労働調査年報

図 東北の企業倒産件数の推移



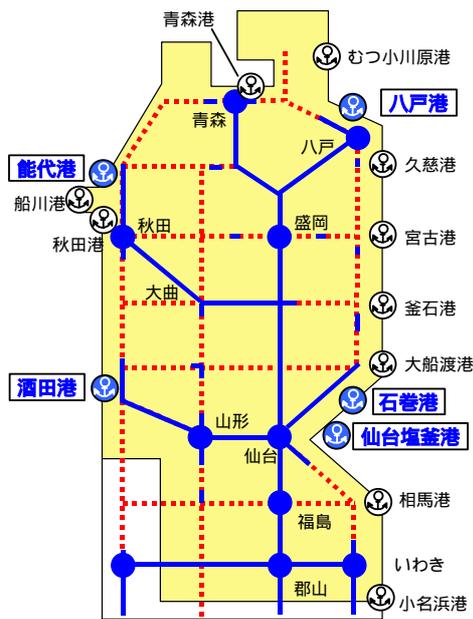
資料：(株)東京商工リサーチ

図 大都市圏に依存するコンテナ貨物輸送



資料：東北港湾協議会「みちのく港の将来像」(平成14年)

図 重要港湾と高規格幹線道路のアクセス不足



[現在(平成14年度末)]

凡例	
	自動車専用道路等とのアクセスが可能な港湾
	自動車専用道路等とのアクセスが不可能な港湾

(注)ここでのアクセスとは、自動車専用道路等の10分から10分以内でアクセスが可能な重要港湾を示す
時間算出は、平成14年7月実施の旅行速度調査による

図 売上高に対する輸出入額

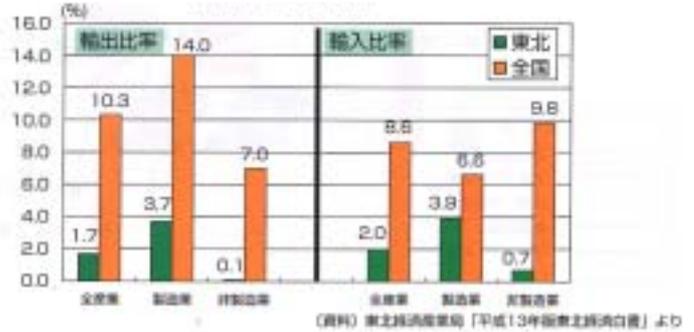
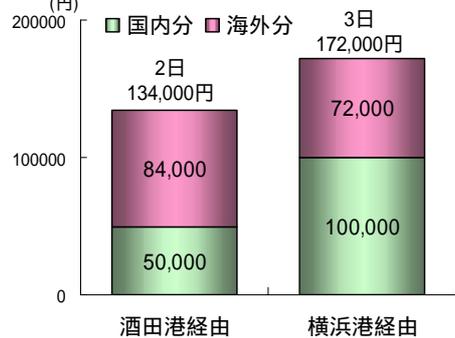


図 東北内、東北外港湾利用輸送コストの比較

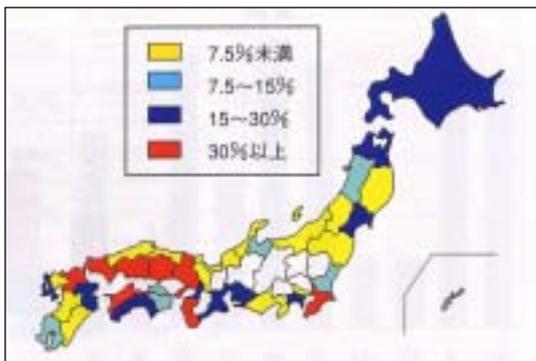
(山形市～釜山港コンテナ運賃、輸送日数の比較(試算))



20フィートコンテナ1個あたりの運賃
国内分はコンテナによる集荷、運送費用(高速料金は含まず)
海外分は海上運賃のみ(通過変動、燃料価格変動による調整分は含まず)
荷主から港までの距離、量、内容により価格は変動する
輸送日数には通関日数、港での保管日数は含まず

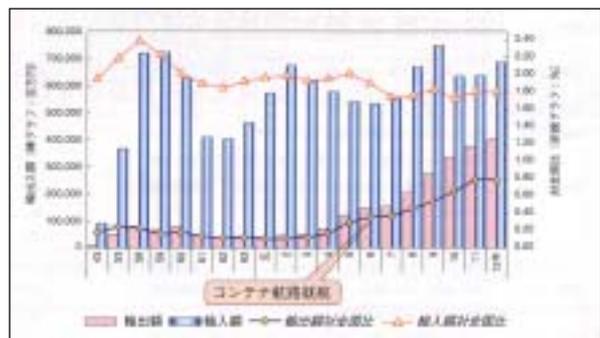
資料：日本通運(株)酒田支店 (H15.2月調査)

図 都道府県別港湾地域の製造品出荷額シェア



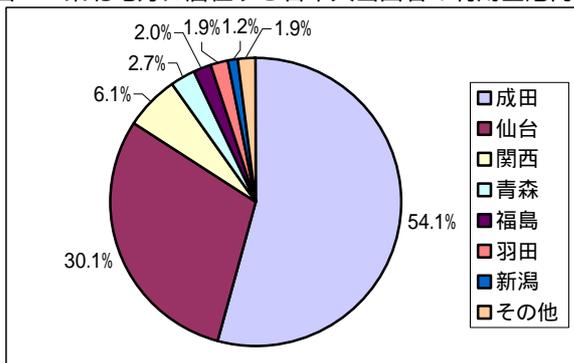
資料：東北港湾協議会「みちのく港の将来像」(平成14年)

図 東北地方の港湾・空港を利用した輸出入額の推移



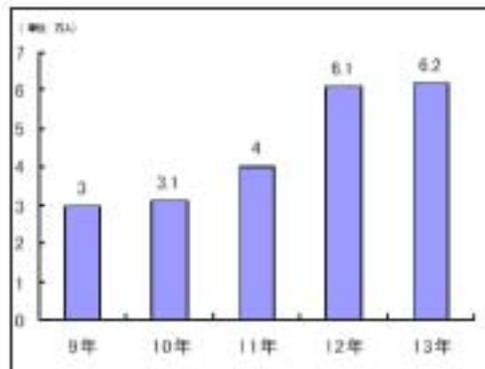
資料：東北経済産業局「平成13年版東北経済白書」

図 東北地方に居住する日本人出国者の利用空港内訳



資料：東北運輸局資料(平成11年度)

図 東北の空港、港湾からの入国外国人人数



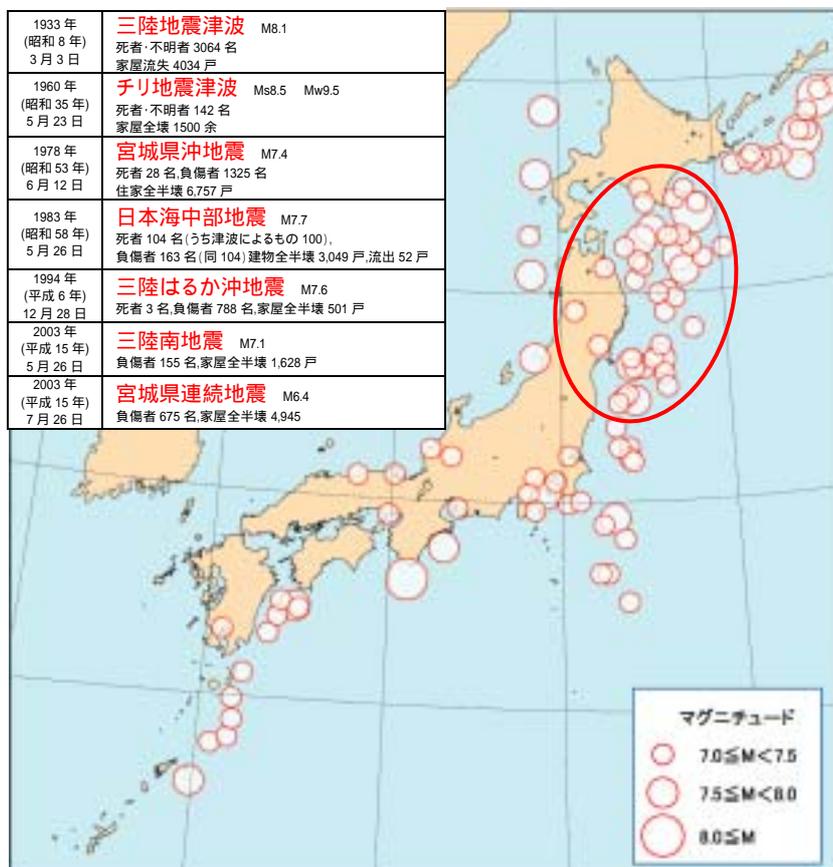
資料：東北運輸局資料

3. 災害に対する脆弱性

東北地方は、宮城県沖地震など大規模地震、津波、水害、火山活動等の災害や豪雪の被害を受けやすく、災害の防止や被害の最小化を図るハード・ソフト対策を進めていく必要がある。

- ・ 東北地方は、全国的にも地震多発地帯であり、脆弱な地質や海岸部では、落石やがけ崩れ、津波等の災害に見舞われる危険性を抱えている。このため被害を最小に抑え、被災後の迅速な対応を図る社会資本整備が急務である(図 、 、)。
- ・ 東北地方は台風や前線に起因する豪雨や積雪が急に融けることによる融雪災害など、集中豪雨等により、毎年のように各地で洪水や土砂災害が発生し甚大な被害を受けており、全国的と比較しても東北地方は高い方である。(図 、 、)。
- ・ 東北地方には18の活火山があり、岩手山を含む11火山が常時観測が必要なBランクに指定されており、火山に起因する災害についても被災が予測される(図)。
- ・ そのため、河川改修や遊水地、ダム等の治水対策や、津波、土砂災害、火山活動等の災害の防止対策が求められているとともに、災害情報の発信・周知といった防災体制の強化やソフト面の充実など、住民の安全・安心を確保することが必要である。

図 東北付近の地震発生源と主な大地震・津波

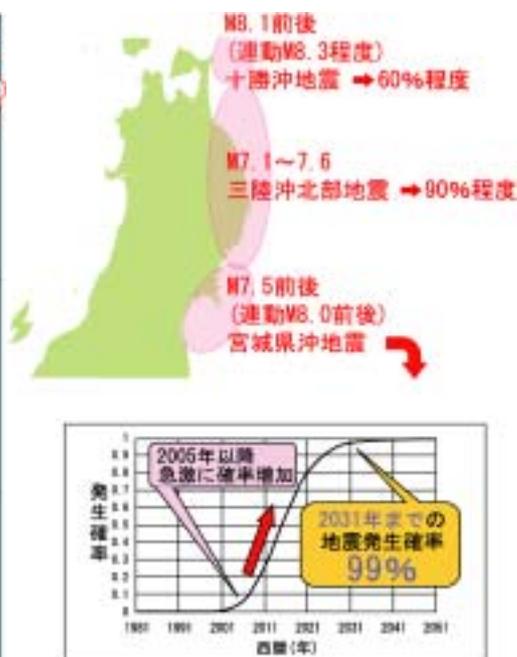


出典：独立行政法人防災科学技術研究所 及び 2003年理科年表

三陸南地震については、マグニチュードが気象庁発表9月25日現在、被害状況が宮城県発表6月19日現在、岩手県発表が6月9日現在の合計値

宮城県連続地震については、マグニチュードが気象庁発表9月25日現在、被害状況が宮城県発表12月5日現在

図 宮城県沖地震等の発生確率



出典：地震調査研究推進本部(文部科学省)

図 地震・津波の被害状況



(宮城県沖地震により寸断された幹線道路(仙台市))



(三陸地震津波後の宮古市)

図 各都道府県の水害等による被害額(平成11年価格)(過去20ヶ年の合計)

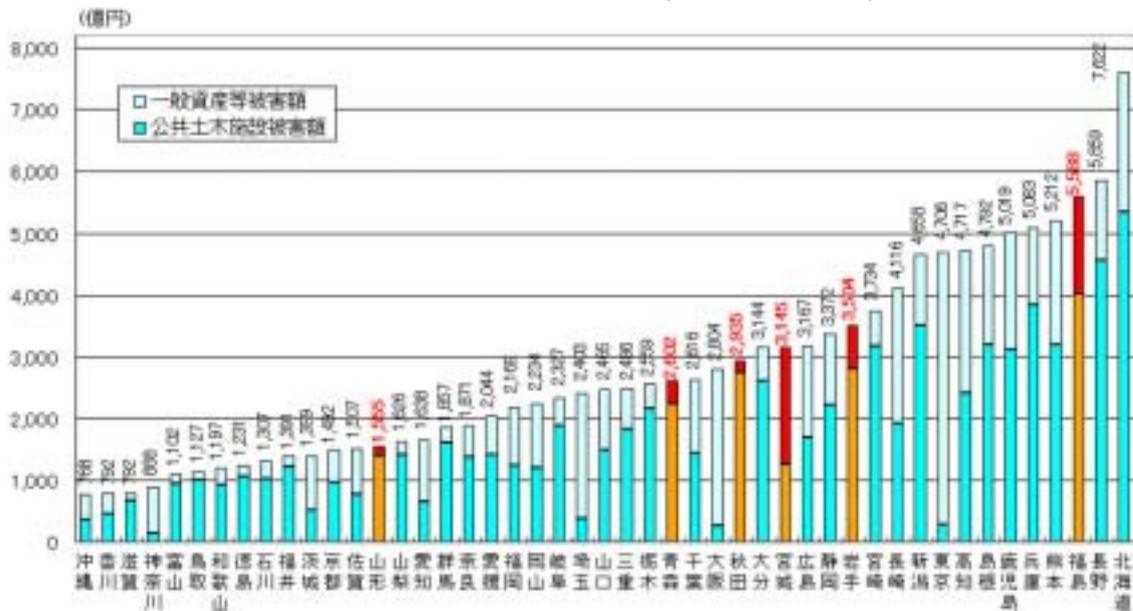


図 水害の状況



(平成14年台風6号による阿武隈川二本松・安達地区流域浸水状況)

図 土砂災害の状況



(H14.7 釜石市土砂災害)

- 注1) 公共土木施設被害額は、国土交通省所管にかかる公共土木施設災害復旧事業決定工事費とした(港湾関係を除く)。
 - 注2) 一般資産等被害額は、家屋、家庭用品、事務所資産(償却資産、在庫資産)、農漁家資産(償却資産、在庫資産)、農作物及び事業所営業停止に係る被害額である(ただし、平成12年のデータはない)。
 - 注3) 公共土木施設被害額は昭和56年から平成12年までの過去20ヶ年、一般資産等被害額は昭和55年から平成11年までの過去20ヶ年の被害額(名目値)を平成11年価格に実質化して合計したものである。
- (出典)「防災課資料」、「水害統計」(ともに河川局)より河川局作成

図 東北地方の活火山



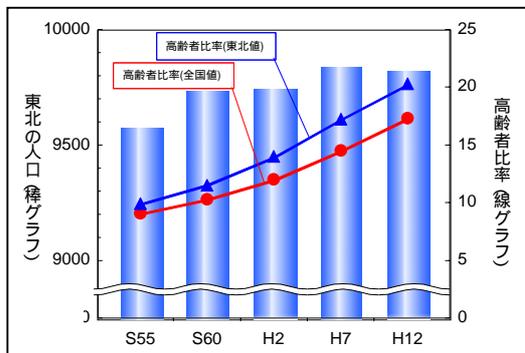
資料: 気象庁

4. 高齢化の進展

全国平均を上回る高齢化が進展している東北地方では、地域における活力の低下や移動の制約の増大などが見込まれるため、安心して暮らせる地域づくりが必要である。

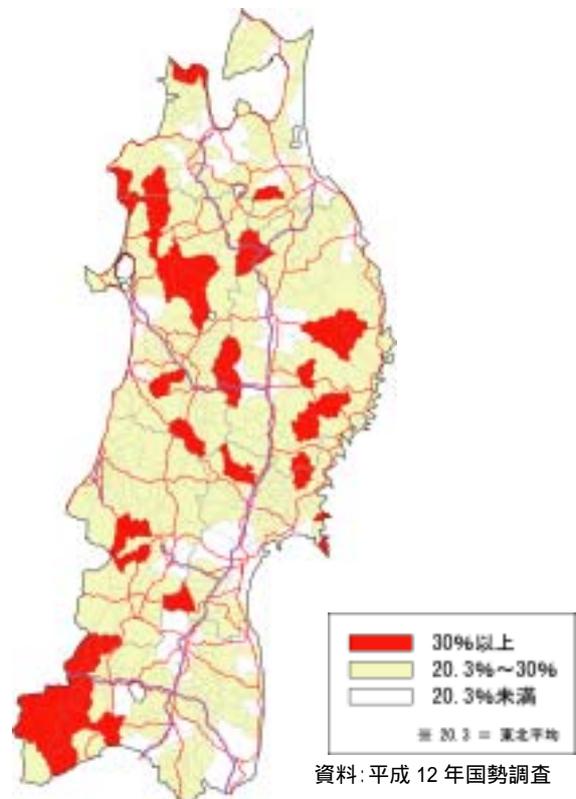
- ・ 東北地方における高齢化は、全国平均を上回り、さらに進展している(図)。
- ・ 東北における高齢化は、特に中山間地域を中心として都市部を上回る速さで進展しており、福祉費用の増大等、地域の医療・福祉サービス機能の一層の充実が求められる(図 、)。
- ・ 東北地方では、高度医療施設 の60分圏域の居住割合は7割程度にとどまっている。また、60分圏外では、周産期死亡率 が高い傾向になっている(図 、)。
- ・ より高度な救急医療サービスを一定の時間内に受けられない地域の解消など、「救命格差」を無くす高速交通ネットワークの整備が必要である。
- ・ 年齢、性別、国籍、身体機能など、人々が持つ様々な特性や違いを越えて、すべての人々が利用しやすいよう、製品、建物、施設、空間などのユニバーサルデザイン による対応が求められている。
- ・ 今後はユニバーサルデザインを事業実施の中心的な考え方として、高齢化社会への対応をはじめとして、安全で安心な暮らしを可能にする質の高い地域の実現が望まれる。
- ・ 元気な高齢者による社会参加も増加がみられることから、高齢者が社会参加しやすい地域環境の整備が必要である(図)。

図 急速に進む東北地方の高齢化



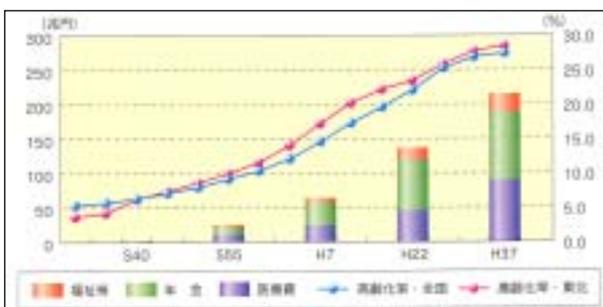
資料: 各年国勢調査

図 東北地方における地域別高齢者比率



資料: 平成 12 年国勢調査

図 社会保障費の推移



資料: 平成10年厚生白書、平成7年国勢調査、都道府県将来推計人口

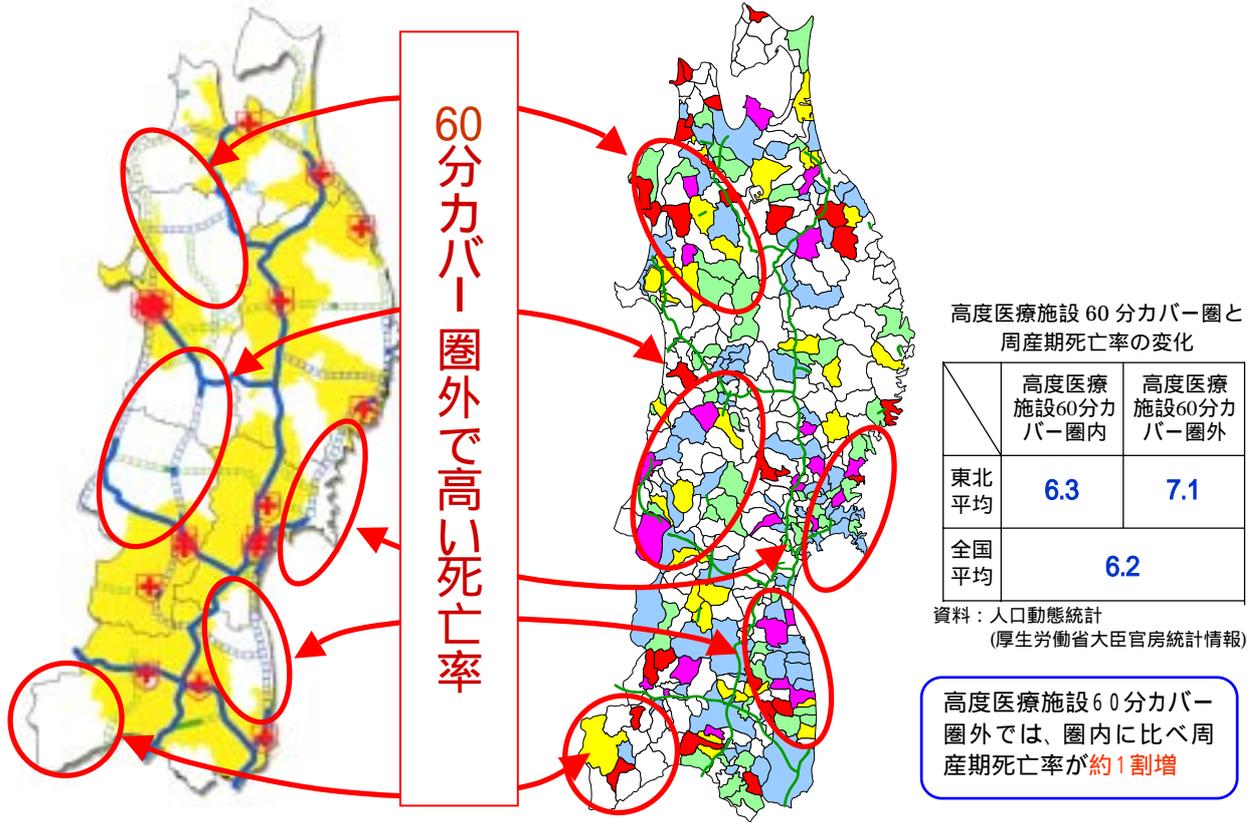
用語解説

ユニバーサルデザイン：すべての人が利用可能であるように製品、建物、空間をデザインすること

(・バリアフリー：障害者や高齢者・妊産婦などが一般社会の中で遭遇する不便さ(障壁：バリアー)を取り除くこと)

周産期死亡率：妊娠満22週から生後7日未満までの期間で死亡する乳・胎児の割合

図 高度医療施設60分カバー圏域と各自治体の周産期死亡率



項目	5年前	現在 (H14末)
高度医療施設 60分圏域カバー人口	630万人 65%	730万人 75%

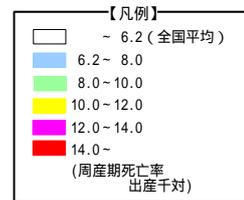
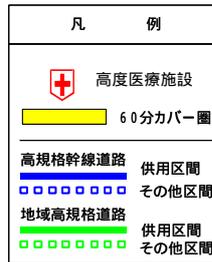


図 高齢者の社会奉仕活動行動者率の推移

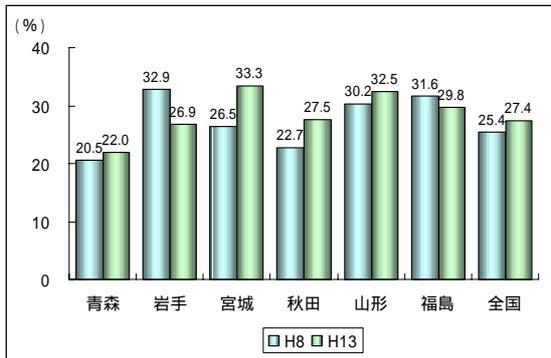
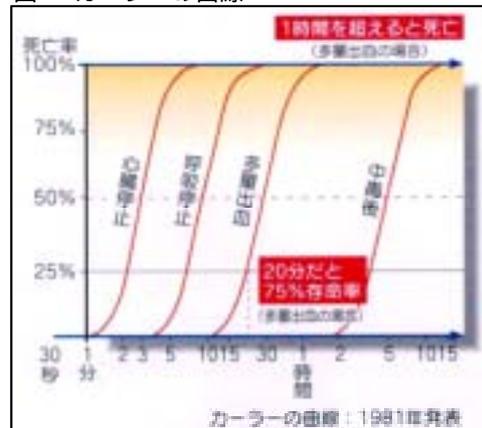


図 カラーの曲線



用語解説

高度医療施設：重危篤救急患者への対応（第一次、第二次医療機関からの転送を含む）を図る施設

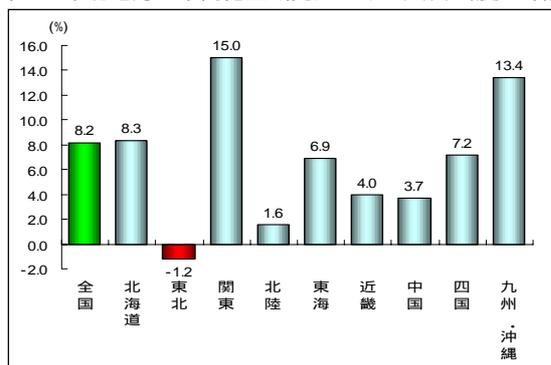
カーラーの曲線：死蔵停止、呼吸停止、多量出血において経過時間と死亡率の関係を示したもの。（この図によると多量出血者を30分放置すると、死亡率は50%となる。）

5. 都市中心部の空洞化の進展

東北地方の都市では、郊外部で商業開発等が進む一方、中心部で賑わいの喪失など空洞化が進んでいるため、活力と個性ある都市づくりを推進していく必要がある。

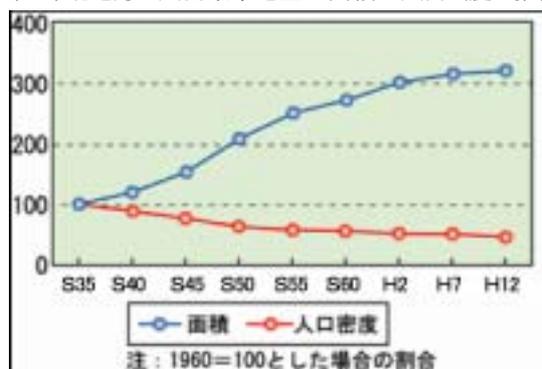
- ・ 東北地方は、全国で唯一市街化区域内の人口密度が低下している地域となっており、人口集中地区についても、面積が拡大しているのに対して、人口密度は低下している。(図、)。
- ・ 東北地方における都市の人口規模別にみると、人口5万人以下の中小都市での人口減少が著しくなっている(図)。
- ・ 全国平均を上回るモータリゼーションの進展に伴う商業環境の変化により、郊外部では、大規模小売店舗の進出等の開発が盛んに進められている一方で、中心市街地などの既成市街地では、出店の割合が減少している(図、)。
- ・ 公共交通機関については、バスを中心に利用者が年々減少し、便数の減少、路線の廃止等が各地で起こっており、自動車を運転できない交通弱者の交通利便性を著しく低下させている(図)。
- ・ 我が国の二酸化炭素排出量のうち、運輸部門の割合は20%であり、そのうち自動車の占める割合は87%、その中でも自家用乗用車の割合は53%となっていることから、環境負荷やエネルギー効率に関する比較のなかから適切な自動車交通とバスや鉄道等の公共交通機関との役割分担が求められる。(図、 、)
- ・ 都市中心部における商業や人口の空洞化が進んだ結果、空き店舗、空きビル、空き家、空闲地などの低未利用地が増加し、これまでの社会資本整備が活かされない状況になっている。(図)。
- ・ 中心部にさまざまな機能を集めることによる市街地の活性化、職場と自宅が近くなる(職住近接)ことによる通勤時の渋滞緩和、近郊の緑地や農地の保全など様々な問題解決を図るため、都市中心部の有効活用、住環境の向上、街なか居住を進めていく必要がある。

図 東北地方の市街化区域内における人口密度の増減



資料: 国土交通省都市・地域整備局
「都市計画年報」(昭和50年・平成12年)

図 東北地方の人口集中地区の面積と人口密度の推移



資料: 各年国勢調査

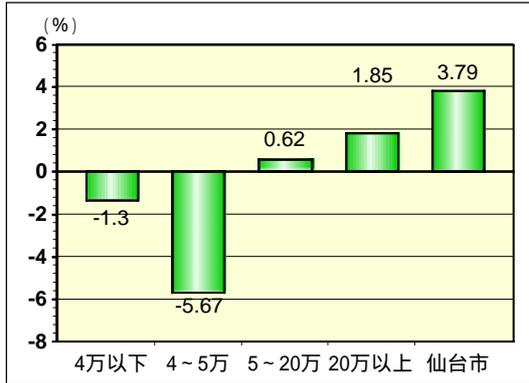
用語解説

人口集中地区: 市町村の区域内で人口密度4,000人/km²以上の地区が互いに隣接して、その人口が、5,000人以上となる地区。

市街化区域: 市街地として積極的に整備する区域

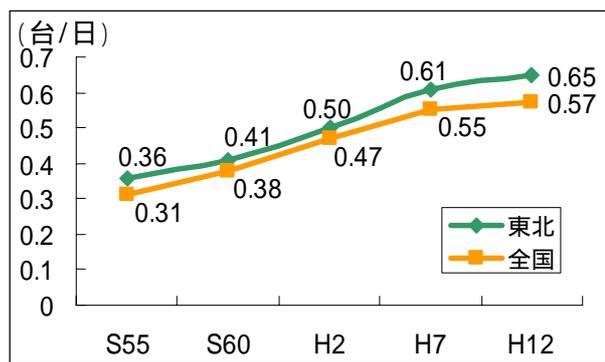
モータリゼーション: 日常生活における自家用車の普及・大衆化

図 東北地方の都市規模別人口増加率



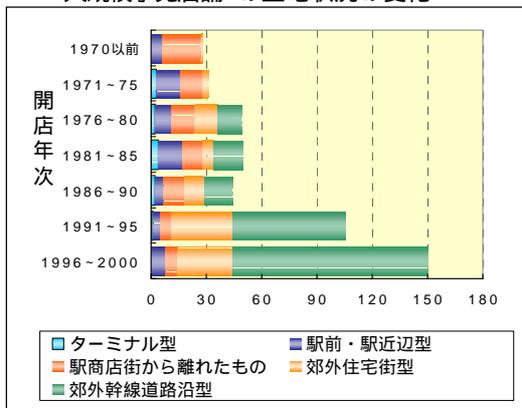
資料: 国勢調査(平成7年・平成12年)

図 人口一人あたりの自動車保有台数の全国比較



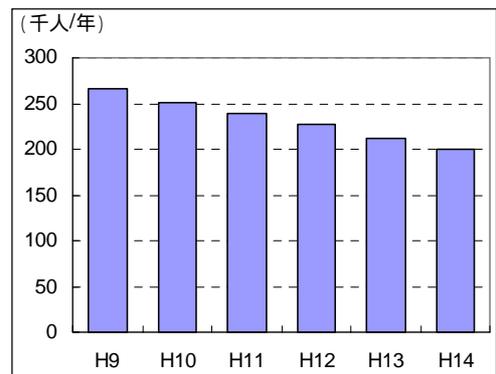
資料: 各年国勢調査

図 東北地方における大規模小売店舗の立地状況の変化



資料: 2003年全国大型小売店総覧

図 一般乗合旅客自動車輸送人員の推移



出典: 東北運輸局 運輸要覧(H9~H14)

図 我が国の部門別の二酸化炭素排出割合

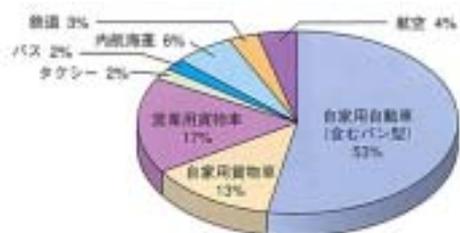
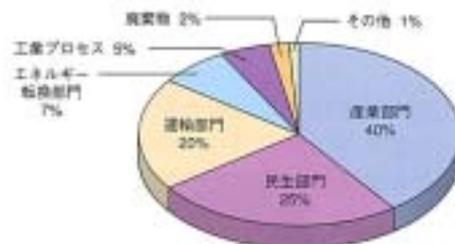
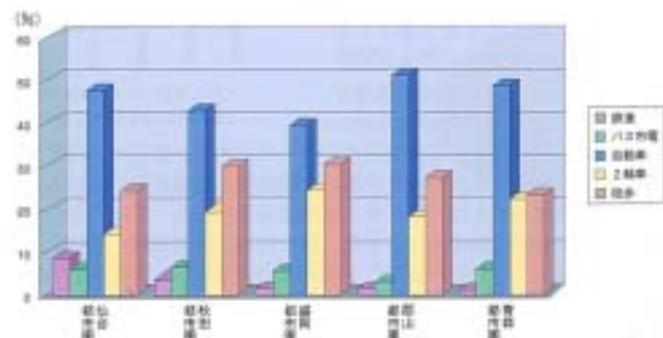


図 輸送機関別の二酸化炭素排出割合



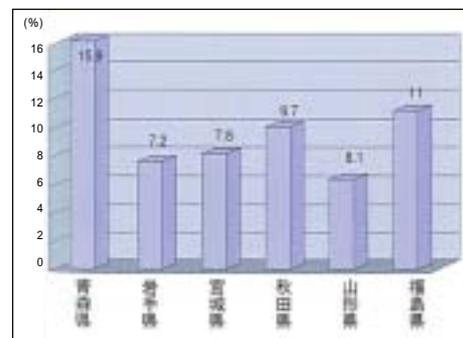
出典: 環境と運輸 (交通エコロジー・モビリティ財団 1998)

図 代表交通手段別トリップ



出典: 都市計画ハンドブック 1998

図 県別空き店舗率



出典: 商業環境の変化(東北地方整備局調査)

用語解説

大規模小売店舗: 3000㎡以上の店舗面積を有する小売店

6. 豊かな自然、素朴な風土、個性的な文化の形成

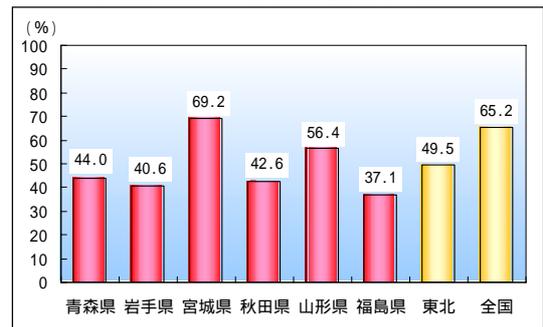
東北地方は、世界自然遺産など美しく豊かな自然環境、素朴な風土、個性的な文化が形成されており、これらを将来に引き継いでいく必要がある。

- ・ 東北地方には、世界自然遺産に登録されている白神山地をはじめとした、美しく豊かな自然・文化資源が点在しており、祭りや雪国独自の文化も数多く存在している(図)。
- ・ 東北地方の各都市の風土を活かし、観光による交流人口の増大など地域経済の活性化を図ると共に、周辺の自然環境と調和の取れた広域的な地域づくりを進めていくことが重要である。
- ・ 水環境において川、湖沼、海の汚れの主な原因は日常生活から排出される生活排水の占める割合が大きい。東北地方の下水道処理人口普及率は、全国より低く特に人口5万人未満の市町村での普及率が低くなっている(図 、)。
- ・ 宅地等の増加にともない東北における林野面積は、年々減少を続けているなど、貴重な自然が失われることにより、生物の生息可能な環境も年々減少を続けている(図 、)。
- ・ 事業を進めるにあたっては、地球温暖化問題等世界的な問題も見据えながら、東北の豊かな自然の保全に配慮した整備を進めていくとともに、限りある資源の有効利用やリサイクルを推進していく必要がある(図 、 図)。

図 東北における主要な自然・文化資源



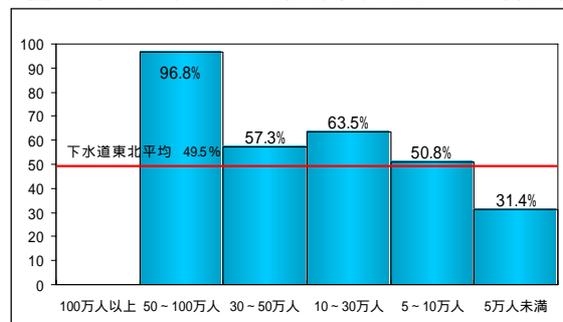
図 東北地方の下水道処理人口普及率



資料: 東北地方整備局資料(平成 14 年度末)

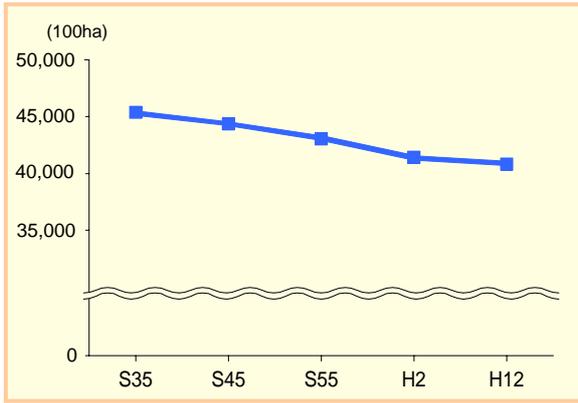
下水道処理人口普及率(%) = 処理区域内人口 ÷ 総人口 × 100
(総人口に対して、下水道を利用できる人口の割合)

図 東北地方の人口規模別下水道処理人口普及率



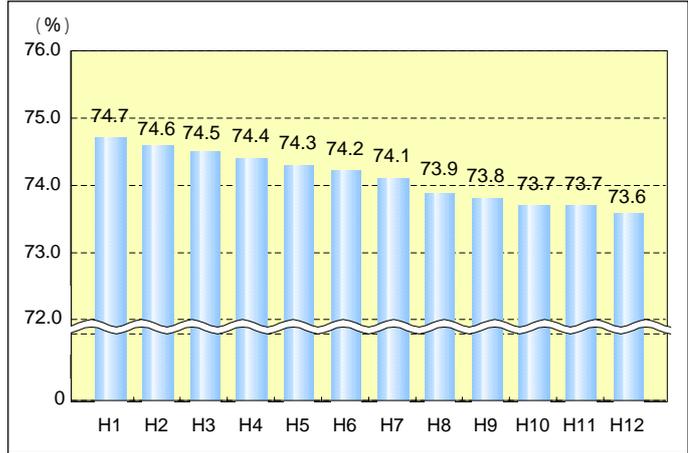
資料: 東北地方整備局資料(平成 14 年度末)

図 東北における林野面積の推移



資料: 各年農林業センサス

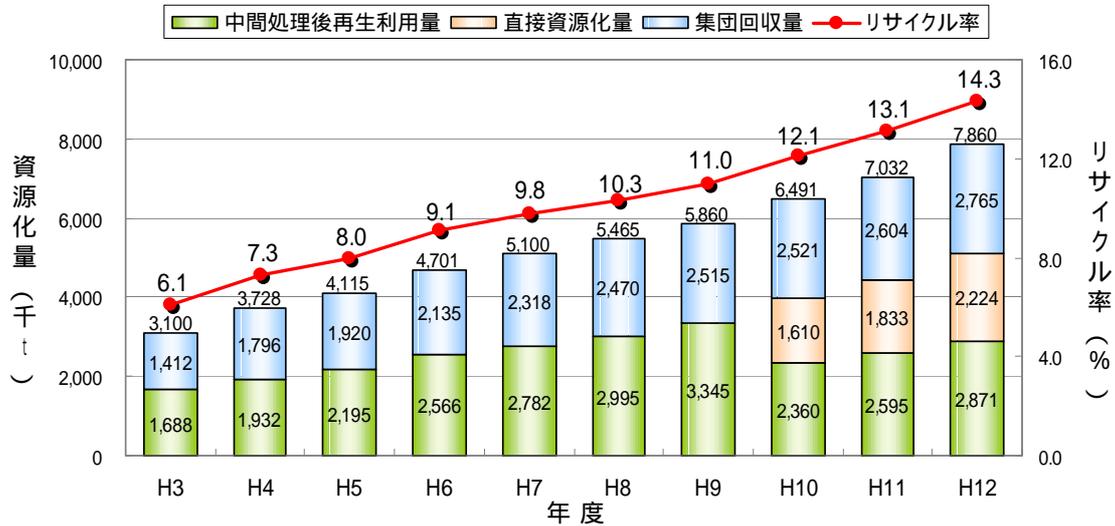
図 宮城県における陸域生物生息環境指標の変化



注) 陸域生物生息環境指標: 陸上生物の生息環境を潜在自然植生をもとに計測したもの

資料: 平成 14 年宮城県環境白書

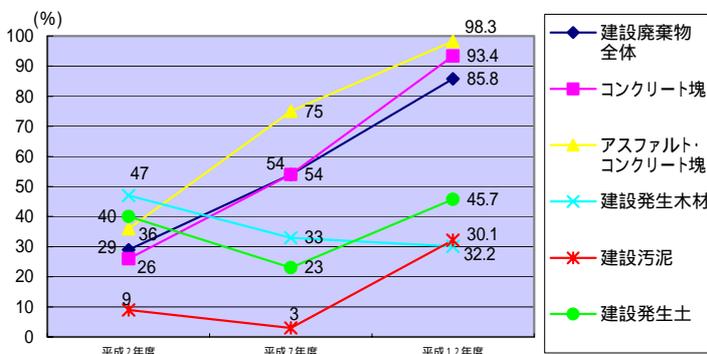
図 総資源化量とリサイクル率の推移 (全国値)



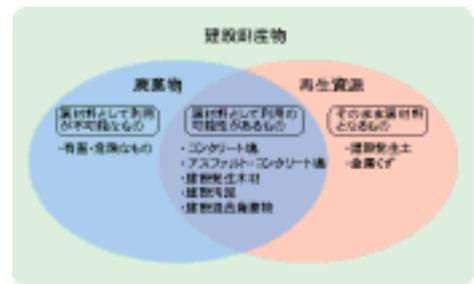
注) ・「中間処理後再生利用量」とは、資源ごみ、粗大ごみ等を処理した後、鉄、アルミ等を回収し資源化した量である。
 ・「集団回収量」とは、市町村による用具の貸出、補助金の交付等で市町村登録された住民団体によって回収された量をいい、ごみの総排出量に含めていない。
 ・平成9年度までは、「直接資源化量」は「中間処理後再生利用量」に計上されていたと思われる。
 ・リサイクル率(%) = (直接資源化量 + 中間処理後の再生利用量 + 集団回収量) ÷ (ごみの総処理量 + 集団回収量)

資料: 環境省 平成 15 年 1 月 日本の廃棄物処理(平成 12 年度版)

図 東北地方における建設副産物再資源化等率の推移



資料: 東北地方整備局資料



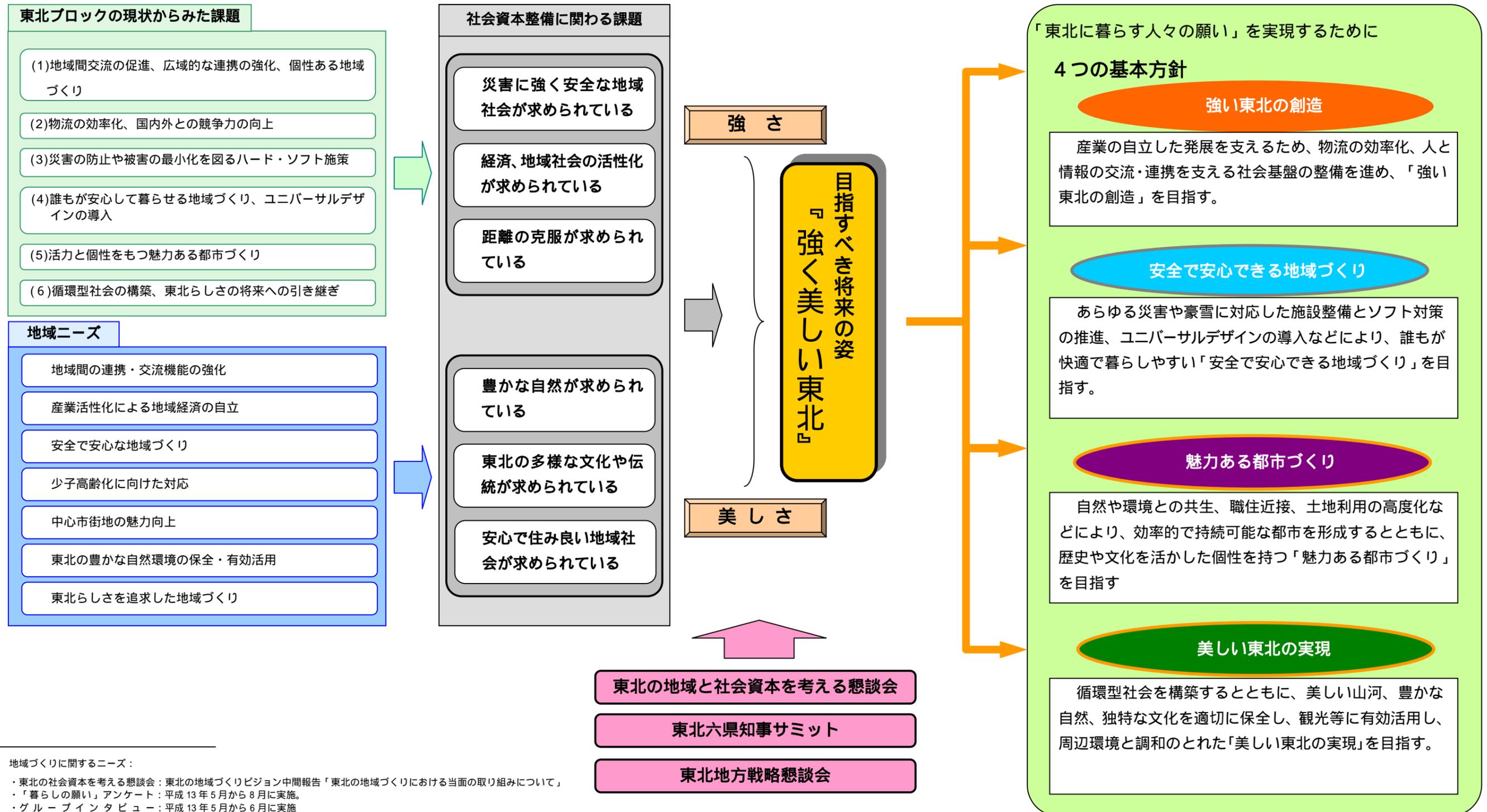
用語解説

建設副産物: 一般に、建設工事に伴い副次的に得られる物品のこと

東北ブロックの目指すべき将来の姿

東北が直面する課題、東北に暮らす人々の願い(地域ニーズ)をふまえ、社会資本の整備などとおして課題を克服するために必要なキーワードを整理し、将来の姿を実現するための地域づくりのテーマを『強く美しい東北』とする。

東北に暮らす人々が誇りと生き甲斐を感じながら生活を営む地域の実現に向け、4つの基本方針を設定し、広大な国土と豊かな自然環境や歴史・文化を活かし、世界に開かれた活力あふれる地域『強く美しい東北』を目指す。



地域づくりに関するニーズ：

- ・東北の社会資本を考える懇談会：東北の地域づくりビジョン中間報告「東北の地域づくりにおける当面の取り組みについて」
- ・「暮らしの願い」アンケート：平成13年5月から8月に実施。
- ・グループインタビュー：平成13年5月から6月に実施
- ・訪問インタビュー：平成13年5月から6月に実施

強い東北の創造

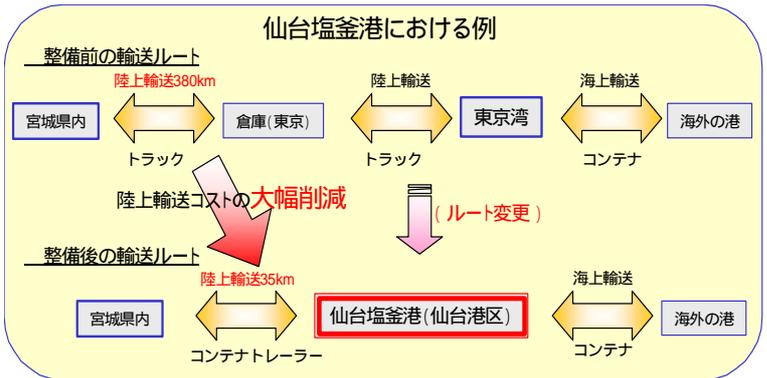
産業の自立した発展を支えるため、物流の効率化、人と情報の交流・連携を支える社会基盤の整備を進め、「強い東北の創造」を目指す。

国際物流ターミナルの整備や、規格の高い道路とのアクセス向上により物流コストを低減

港湾整備と幹線道路のアクセス強化



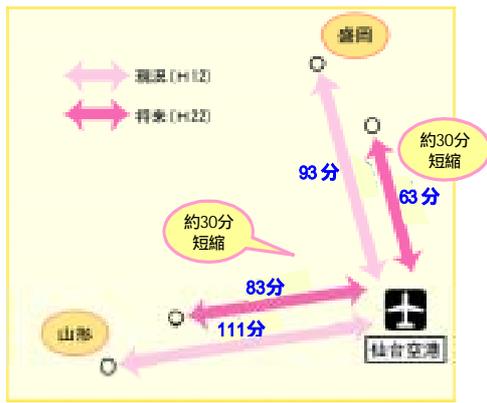
輸送ルートの変更による物流コストの削減



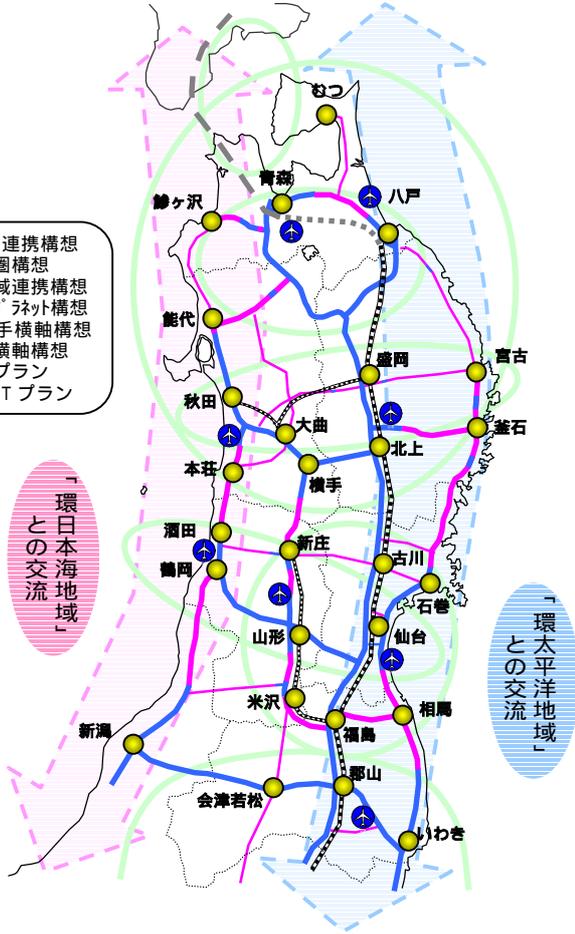
広域交通ネットワークの整備による地域間交流・連携の促進

東北からの国際線の利用が便利に

仙台空港へのアクセス時間を短縮
< 電車利用 > (将来: 仙台空港線利用)



- 広域的交流・連携構想
- 青函交流圏構想
 - 北東北広域連携構想
 - 環十和田アネット構想
 - 秋田・岩手横軸構想
 - 中部東北横軸構想
 - 東北 SUN プラン
 - 21 世紀 FIT プラン

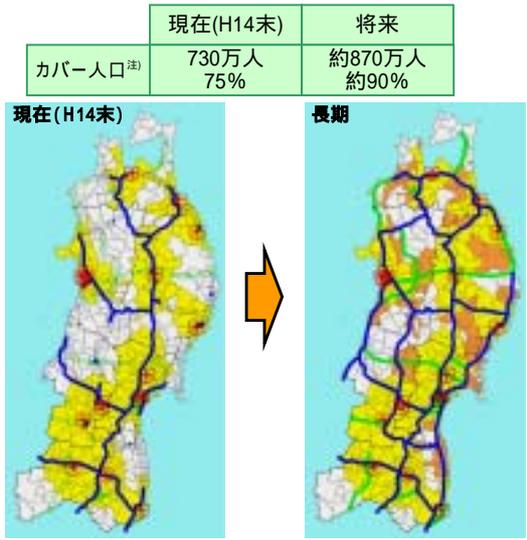


凡 例	
高規格幹線道路	— (供用・未供用)
地域高規格道路等	— (供用・未供用)
新幹線(営業中)	—
(建設中)	—
(計画)	—
空 港	+

安全で安心できる地域づくり

あらゆる災害や豪雪に対応した施設整備とソフト対策の推進、ユニバーサルデザインの導入などにより、誰もが快適で暮らしやすい「安全で安心できる地域づくり」を目指す。

命のたすかる人を増やす



凡 例

	第三次救急医療施設		60分カバー圏		高規格幹線道路 供用区間	^注 カバー人口：高次医療施設へ1時間以内で行くことのできる人口
	道路整備により拡大するカバー圏		地域高規格道路 供用区間		その他区間	^注 高次救急医療施設：高度な治療施設・技術を持つ病院

洪水の被害を軽減し、安心できる地域へ

福島水位観測所	規 模	
H10	5.43	戦後2番目
H14	5.27	戦後3番目

阿武隈川平成の大改修の効果
 浸水面積(ha): 1,846 957
 浸水戸数(戸): 1,917 895

平成10年8月洪水

平成14年7月 台風6号洪水

災害に対する不安を軽減

河川防災ステーションの整備を進めるとともに、ハザードマップなどのソフト対策も行う。

郡山河川防災ステーション

洪水ハザードマップ

津波から住民の生命と財産を守る

釜石港 湾口防波堤

あぶない通学路を安全で快適に

消流溝事業や歩道の整備により、安全な歩道を確保。

歩道が雪で埋まり、危険な車道を歩く子供達

歩道が安全になり、生活環境の改善が図られます。

暮らしやすい生活環境を確保

ユニバーサルデザインの導入やバリアフリー化により利用しやすい施設整備を進める。

鉄道駅のバリアフリー化(JR仙台駅)

魅力ある都市づくり

自然や環境との共生、職住近接、土地利用の高度化などにより、効率的で持続可能な都市を形成するとともに、歴史や文化を活かした個性を持つ「魅力ある都市づくり」を目指す。

街なか居住により、各種施設を利用しやすく



市街地再開発事業:いわき市平一丁目

- ・通勤時間が短くなります
- ・病院、図書館などが利用しやすくなります
- ・バス、鉄道などが利用しやすくなります
- ・街のにぎわいが楽しめます

安全で快適な人優先のみちへ再生

歩行者優先の「暮らしのみちゾーン」を形成します
公安委員会と連携し

- ・事故危険箇所の集中的対策
 - ・「あんしん歩行エリア」の整備に取り組みます
- 「暮らしのみちゾーン」のイメージ



開かずの踏み切りを解消し、円滑な交通を確保

【事例】JR仙石線連続立体交差



電線類地中化で祭りを支援

【事例】立佞武多(たちねぶた)、青森県五所川原市



高さ20mを超える
巨大「ねぶた」がまちを移動

- ・電線が障害となり
大正のはじめに祭りは消滅

- ・しかし、電線類の地中化など
により祭りが復活

鉄道整備による都市交通の発展

【事例】JR仙石線 小鶴新田駅



新駅の整備

電線類地中化前後の様子



【整備前】



【整備後】

美しい東北の実現

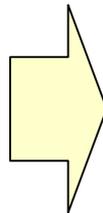
循環型社会を構築するとともに、美しい山河、豊かな自然、独特な文化を適切に保全し、観光等に有効活用し、周辺環境と調和のとれた「美しい東北の実現」を目指す。

環境配慮型官庁施設(グリーン庁舎)の整備



東北地方における初めてのグリーン庁舎(本荘地方合同庁舎外観図)

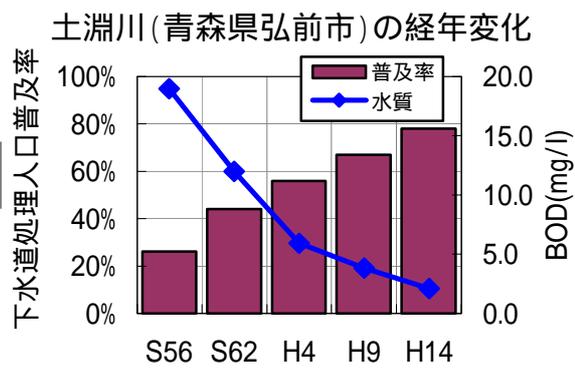
川の流れをよみがえらせる



最上川水系寒河江川 (寒河江ダム直下流)

魚類等の生息環境の保全等、健全な水循環系の構築を図る。

川の水を美しく



下水道の整備を行い、河川の水質を改善する。
BOD: 水の汚濁状態を表す指標の一つ(生物化学的酸素要求量)

周辺環境との調和

優れた景観地区等へ景観に配慮した防護柵を整備



循環型社会構築に資する静脈物流拠点の形成

リサイクル産業の展開に対応した広域的な静脈物流の拠点の形成に、官民が連携して取り組む。



平成15年4月総合静脈物流拠点(リサイクルポート)に東北管内で八戸港、釜石港、酒田港を指定

